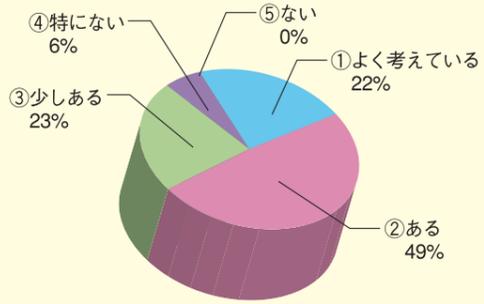
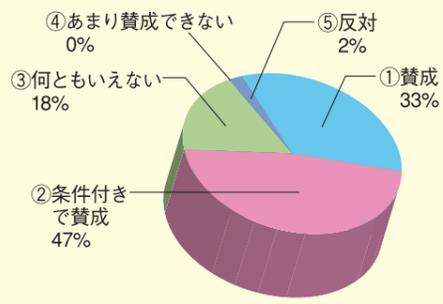


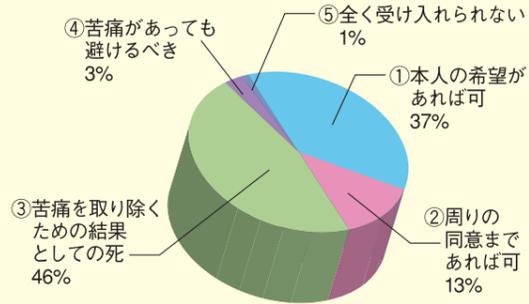
3.自分の死について考えたことがありますか?



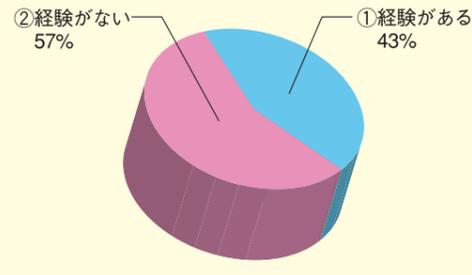
4.尊厳死について



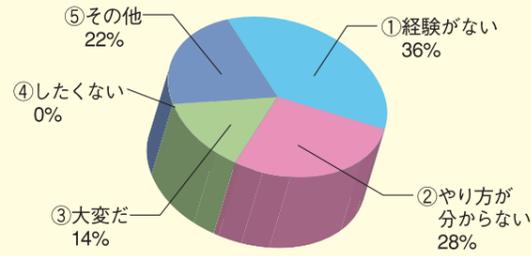
5.安楽死はどこまでゆるされると思いますか?



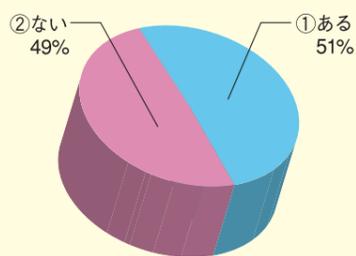
6.「看取り」について



7.「看取り」の障害になっていることは何ですか?



8.サクシヨンの経験はありますか?



【アンケートに寄せて】

多くの人は住み慣れた自宅でポックリ死ぬことを願っているのに救急車で搬送され予期せぬ医療を受けることにも疑問の声が上がってきています。『本当に幸せな死であったのだろうか?』『住み慣れた場所で見知った人たちに見守られながら死にたい』その願いはどのようにすれば叶うのでしょうか?地域医療介護福祉を担う私たちはどのように『その人の望む死』に向き合っていけばいいのでしょうか?今回はそのような問いかけの始まり

としてアンケートをとらせていただきました。『自分の死』については94%が考えている。『尊厳死は賛成』が80%である。一方『看取りの経験ない』が57%、『看取りの障害は』①経験がないから②やり方がわからない③大変だ、となっている。死を口にすることはタブーだと思っている、人が死ぬことを認めたくない気持ち、覚悟ができない、家族への対応や配慮の仕方が難しい。などのご意見がありました。これからも、避けては通れない『生きる』過程上の『死』をどう支えるのかを、皆で考えていきましょう。

お知らせ

第2回 多職種連携合同会議(タッピーねっと) 平成25年11月28日(木曜日)18:30~20:00

◆テーマ/「みんなで考える終末期ケア」 ◆講演/「人が死ぬときはどうなるの?」

◆講師/医療法人漢仁会 手稲家庭医療クリニック 院長 小嶋 一 先生

◆グループワーク/「自分の施設で人を看取るときに問題になることと解決策を考えよう」

事務局

タッピーねっと(札幌市東区東部地区在宅医療連携協議会)事務局
住所 札幌市東区東苗穂3条1丁目2-18(東苗穂病院内) tel 011-784-1121 / fax 011-780-2058 担当:田原・荒井

タッピーねっと通信

2013.10



〈札幌市東区東部地区在宅医療連携協議会〉

発行先:札幌市東区東部地区在宅医療連携協議会 事務局:医療法人社団 豊生会 東苗穂病院

代表 星野 豊 あいさつ



タッピーねっとは平成24年の国のモデル事業、在宅医療連携拠点事業に採択されて始まりました。合同会議、地域懇話会、ホームページ作成、ネットワークの登録、ガイドブック作成など、この一年間たくさんの方々のご協力を頂き運営してまいりました。地域包括ケアもこの一年半のなかでずいぶん変化してきました。地域包括ケアシステムの五つのアイテム(住まい・医療・介護・予防・生活支

援)はお互いが親密に、綿密に、そしてしっかりとした連携が必要であり、今後ますます地域のなかで顔の見える関係、顔の向こうが見える関係を構築していかなければなりません。これからも、とよひらりんく、手稲、夕張とネットワーク同士がさらに連携し、切磋琢磨し、これからの高齢者社会での役割をしっかりと把握出来るようにこのタッピーねっとが役だっていければと考えています。

地域包括ケアシステムは進化しています。



植木鉢・土のないところに植物を植えても育たないのと同様に、地域包括ケアシステムでは、高齢者のプライバシーと尊厳が十分に守られた「住まい」が提供され、その住まいにおいては安定した日常生活を送るための「生活支援・福祉サービス」があることが基本的な要素となります。そのような養分を含んだ土があればこそ初めて、専門職による「医療・看護」「介護・リハビリテーション」「保健・予防」が効果的な役割を果たすものと考えられます。

地域包括ケアシステム Ver.3.2



24年度事業報告・25年度事業計画

<24年度事業計画>

- ①多職種連携合同会議:4回の合同会議を実施。毎回、100人以上の多職種が参加
- ②地域在宅医療懇話会:地域住民への普及啓発を目的に3地区で3回開催。毎回60名を超える地域の方が参加
- ③「タッピーねっと在宅医療ガイドブック」の作成:5,400部作成し、町内会・区役所を通じて配布

<25年度事業計画>

拠点事業については、今年度以降も引き続き展開していきます。これからは、「顔の見える関係」から「顔の向こう側が見える関係」さらに「顔を通り超えて信頼できる関係」をつくることを目標に、地域包括ケアの実現に向けて活動を継続していきたくと考えております。



第1回 タッピーねっと多職種連携合同会議



○講話とワールドカフェによるグループワーク

講師:札幌市東区 栄町ファミリークリニック院長 松田諭先生
 テーマ:「家庭医療の進化と深化」～地域でいきいきと、安心して暮らすためのネットワークづくり～



札幌市東区 栄町ファミリークリニック院長 松田諭先生より「家庭医療の進化と深化」～地域でいきいきと、安心して暮らすためのネットワークづくり～と題して、講話とワールド・カフェ形式のグループワークが行われましたので報告いたします。

グループワーク形式での松田先生の講義は、まず、グループ同士で握手をしながら自己紹介、参加の理由を話し、和やかな雰囲気の中で始まりました。内容は、「地域包括ケア」とは？なぜ「地域包括ケア」が必要か？をテーマに、写真・スライドを使用して話されました。

私たちは、「なぜ、健康でいたいのか？」の問いから、ひも解き、「健康」の概念についてまとめました。健康でいたい理由は、寝たきりにならずに、ポックリ行きたい。でも、医学が進歩してポックリ死ぬのが難しく、病気や障害を持って生きていくのが現実の姿。

今後、「ポックリ死ぬための健康」から「よりよく生きるための健康」へと転換、つまり、「医学モデル」から「生活モデル」へと転換、つまり、地域で安心・安全に暮らし続けるために、地域で一人ひとりが生活の主体者として、「ありたい姿」を考え、持続する面的仕組みをデザインすることが地域包括ケアであるとまとめられました。



1グループ、多職種6人から8人、18のグループで、ワールドカフェの手法で、「地域でいきいきと暮らすためのネットワークづくり」についてグループワークをしました。

企画の段階で、ワールドカフェということが理解できず、お茶を飲みながら気軽な雰囲気グループワークをすることだと勝手に思っていました。固定したグループではなく、一人のホストを残し、ほかのグループに移動、最後に元のグループに戻り皆さんのアイデアを出す手法でした。その中から、面白そうな良いアイデアを10個選び、共通模造紙に人数規模・時間軸に分類して、参加者全員でアイデアを共有するという、画期的で流動的で楽しいグループワークでした。

<縦軸:人数規模によるアイデア>

- *一人で今すぐできるもの～笑顔で挨拶、町内を散歩して知り合う、困っている人を助ける、お年寄りに感謝する。
- *10人規模～散歩の会、お祭りに参加。
- *50人規模～焼肉パーティ、散歩の会、まち廻り、カフェめぐり、高齢者が趣味の先生役、小学生による高齢者宅の訪問のスタンプラリー、かかりつけ医マップ作り。
- *100人規模～葉を届ける、独居の人のマップ作成、ラジオ体操、一緒にランチ、気軽にできる健康チェック、小学生が登校時にゴミ出しの手伝いなど。

<横軸:時間軸によるアイデア>

- *すぐ・1か月後にできるもの～高齢になることの理解、誕生会、多世代によるお泊り会、動物のふれあい会、広報誌「さっぽろ」を読む会、災害時の助け合い、学校行事に参加、中学生・高校生による除雪等。
- *1か月後～畑作りをして交流、非婚者ネットワーク、コミュニティガーデンによる参加販売、パソコン教室、交通安全の旗振り、おばあちゃんによる料理教室、針仕事教室、子育て・児童クラブのお手伝い、ゴミ拾い、お寺・教会の活用、施設めぐりのスタンプラリー。
- *1年後～独居世帯の訪問、子育てサロン、多世代交流、高齢者が営む1コインランチ、困りごとの相談窓口、小学校で高齢者の理解、パソコン講座、空教室で高齢者も給食。
- *5年後～保育所とグループホームの併設、学童保育に高齢者がかわる。
- *10年以上～医療・介護の連携、ソーシャルネットワークの活用、インフォーマルとフォーマルの資源の拠点作りのアイデアが出ました。

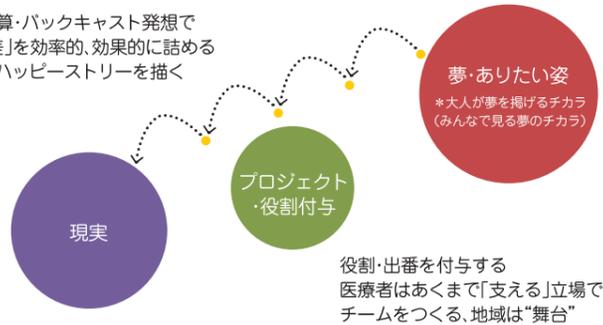
112名の参加者のたくさんのアイデアを時間軸と人数規模でまとめると、「地域でいきいきと、安心して暮らすためのネットワークづくり」に必要なものは、

- ①挨拶、畑作り・散歩・食事などの日常的な交流を通して、顔と顔の見える関係ができること
- ②相手の困っていることへのお手伝い等(お互い様・互助)
- ③医療・介護連携
- ④多世代交流による体操・サロン
- ⑤学校の空き教室での趣味活動・配食など、一人一人が、地域でよりよく暮らすためのアイデアを持ち寄り、ネットワークの構築が必要であることの再認識した会議でした。



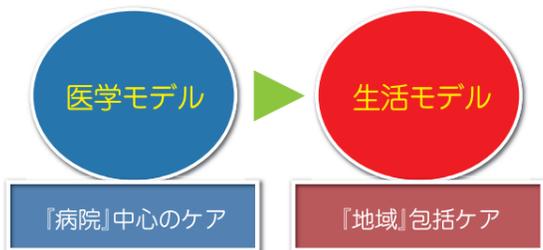
医療×コミュニティ・デザイン

逆算・バックキャスト発想で「差」を効率的、効果的に詰める
 *ハッピーストーリーを描く



主役は住民、持続する面的仕組みをデザインする

「健康」の概念



しかし…

医学の発達

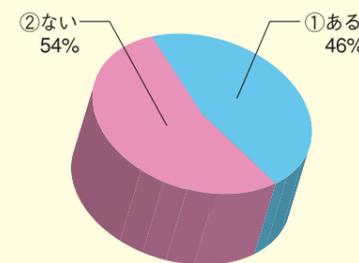
ポックリ死ぬのが難しい現状

病気や障害を持って生きることが必要

第1回タッピーねっと合同会議～終末期に関するアンケート～

(全体アンケート集計結果・申込118名・参加111名・回答90名)

1.人の死後の処置をしたことがありますか？



2.人の死について考えたことがありますか？

